

UK01-PDF-001 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【目的・用語の定義】設問「貨物自動車運送事業法の目的として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「貨物自動車運送事業の運営を適正かつ合理的なものとし、その健全な発達を図って公共の福祉の増進に資すること」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「貨物の運行管理者必要数を算定する際の車両数について、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「従業員の私有車もすべて数える。」とした。

ア. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

イ. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

ウ. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

エ. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。法は事業運営の適正・合理化、健全な発達等を通じ公共の福祉の増進を目的とする。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。従業員私有車は算定対象ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-002 難易度1

貨物自動車運送事業法上の「貨物自動車運送事業」に含まれる3事業の組合せとして正しいものはどれか。

ア. 一般貨物自動車運送事業・特定貨物自動車運送事業・貨物利用運送事業

イ. 一般貨物自動車運送事業・特定貨物自動車運送事業・貨物軽自動車運送事業

ウ. 一般貨物自動車運送事業・自家用貨物運送・貨物利用運送事業

エ. 特定貨物自動車運送事業・貨物軽自動車運送事業・貨物利用運送事業

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。貨物利用運送事業はこの3区分には含まれない。

イ：正しい。一般貨物・特定貨物・貨物軽自動車の3事業である。

ウ：誤り。自家用貨物運送と貨物利用運送事業はこの3区分ではない。

エ：誤り。一般貨物自動車運送事業を欠き、貨物利用運送事業を含んでいる。

総合解説：貨物自動車運送事業の基本3区分を正確に整理する。

UK01-PDF-003 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【目的・用語の定義】設問「次のうち、一般貨物自動車運送事業の定義を正しく説明しているものはどれか。」に対し、回答「自社の貨物のみを自家用自動車で運送する事業である。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「運行管理者の配置基準について正しいものはどれか。」に対し、回答「原則として営業所ごとに、その営業所の事業用自動車数に応じ必要数を選任する。」とした。

ア. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

イ. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

ウ. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

エ. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。自家用で自社貨物のみを運ぶ形は一般貨物自動車運送事業の定義ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。配置基準は営業所単位で車両数に応じて考える。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-004 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【目的・用語の定義】設問「貨物軽自動車運送事業の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「普通貨物自動車だけを使用して貨物を運送する事業である。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「1つの営業所に複数の運行管理者を選任する場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「整備管理者が必ず運行管理者全員を兼務しなければならない。」とした。

ア. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

イ. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

ウ. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

エ. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。貨物軽自動車運送事業は普通貨物自動車だけを対象とするものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。整備管理者が必ず兼務する制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-005 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【目的・用語の定義】設問「特別積合せ貨物運送の特徴として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事業場で集貨した複数の貨物を積み合わせ、他の事業場へ定期的に運送し、そこで配達に必要な仕分けを行う形態である。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所の事業用自動車が29両から30両に増える。運行管理体制として適切な対応はどれか。」に対し、回答「運行管理者数ではなく、整備士の人数だけを確認すればよい。」とした。

A. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

I. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

U. 目的・用語の定義の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

E. 目的・用語の定義の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。集貨・積合せ・事業場間の定期運送・仕分けという要素が重要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者必要数の確認が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-006 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【許可・欠格事由】設問「一般貨物自動車運送事業を営もうとする者について正しいものはどれか。」に対し、回答「営業所所在地の市町村長の登録だけを受ければよい。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所で必要な運行管理者数が2人であるのに、退職により1人しかいない状態となった。事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者全員を自動的に運行管理者として扱う。」とした。

A. 許可・欠格事由の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

I. 許可・欠格事由の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

U. 許可・欠格事由の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

E. 許可・欠格事由の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。市町村長への登録だけで足りる制度ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。資格者証等の要件なしに自動的に運行管理者とはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-007 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【許可・欠格事由】設問「一般貨物自動車運送事業の許可に関する記述として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「欠格事由は許可取得後だけに問題となり、申請時には関係しない。」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験に合格した者が、運行管理者資格者証の交付を受けるための考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「試験に合格し、所定の申請を行って国土交通大臣から資格者証の交付を受ける。」とした。

A. 許可・欠格事由の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

I. 許可・欠格事由の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

U. 許可・欠格事由の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

E. 許可・欠格事由の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。欠格事由は申請段階で許可の可否に関係する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。試験合格は資格者証交付要件の一つであり、その後に交付申請を行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-008 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【許可・欠格事由】設問「許可申請者が法令上の欠格事由に該当することが確認された場合の扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運賃を低く設定すれば欠格事由の審査を免除される。」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者資格者証について、試験合格以外の交付要件として適切なものはどれか。」に対し、回答「運送会社に在籍しているだけで年数に関係なくよい。」とした。

A. 許可・欠格事由の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

I. 許可・欠格事由の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

U. 許可・欠格事由の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

E. 許可・欠格事由の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運賃設定と欠格事由の適用は別問題。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。在籍だけでなく運行管理に関する実務経験等が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-009 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「一般貨物自動車運送事業者が事業計画を変更しようとする場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「法令上の軽微な変更等を除き、あらかじめ国土交通大臣の認可を受ける。」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験の新規受験資格として正しいものはどれか。」に対し、回答「運行管理者として既に選任されている。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事業計画変更は原則認可で、軽微な事項等には届出の扱いがある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。選任前に資格者証取得を目指す制度であり、既選任は要件ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-010 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「国土交通省令で『軽微な事項』とされる事業計画の変更を行った場合の基本的な手続として正しいものはどれか。」に対し、回答「軽微な事項は事業計画に含まれないため、変更しても行政手続は一切不要である。」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「運行管理者資格者証の返納命令について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転免許証を更新しなかっただけで、必ず運行管理者資格者証も返納となる。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。軽微であっても法令上の届出義務がなくなるわけではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転免許と資格者証は別制度。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-011 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「貨物自動車運送事業法施行規則上、軽微な事項に関する事業計画の変更の例として正しいものはどれか。」に対し、回答「一般貨物自動車運送事業そのものを第三者へ譲渡すること」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「選任した運行管理者に対する運行管理者講習について、国土交通省が示す基本的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「事業者は、選任する運行管理者に原則2年に1回、運行管理者講習を受けさせる必要がある。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業譲渡は単なる軽微変更とは扱われない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。国土交通省は、選任する運行管理者について2年に1回の受講

が必要と示している。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-012 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「営業所に関する変更手続について、最も慎重に確認すべき考え方はどれか。」に対し、回答「営業所の名称変更と位置変更は常に同一の手続である。」とした。

B.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験に合格した者が資格者証の交付を申請する時期について、現在の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「営業所の運行管理者として先に選任された後でなければ、資格者証の交付申請はできない。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は正しい。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 資格者証・返納・講習の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。名称と位置では法令上の扱いが異なり得る。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。資格者証の交付を受けた者から運行管理者を選任するので、順序が逆。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-013 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「各営業所に配置する事業用自動車の種別ごとの数を変更する場合の手続として、原則正しいものはどれか。」に対し、回答「国土交通省令で定める事業用自動車に関する変更として、変更前に所定の届出を行う。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「事業計画に基づいて安全な運行を継続するため、運行管理者が運転者の選任について行う業務として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者の選任・確保は荷主の責任であり、事業者側の運行管理とは無関係である。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事業用自動車に関する省令所定の事業計画変更は、あらかじめ届け出る仕組み。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者の選任は貨物運送事業者側の運行管理に関わる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-014 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「事業者が、認可を要する事業計画変更を実施してから後で届け出れば足りると判断した。この判断として正しいものはどれか。」に対し、回答「正しい。運行管理者が同意していれば認可に代えられるからである。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「乗務前後等の点呼に関し、運行管理者の処理として正しいものはどれか。」に対し、回答「点呼は事故発生後だけ行う。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者の同意は国土交通大臣の認可に代わらない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。点呼は日常の乗務前後等に行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-015 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「事業者が「軽微な変更だから国への手続は一切不要」として届出をしなかった。評価として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「正しい。車庫に掲示しておけば届出に代えられる。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「営業所で使用するアルコール検知器の管理について、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「法令で求められるアルコール検知器を常時有効に保持し、点呼で適切に使用できる状態を確保する。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。掲示は法定届出に代わらない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。『備える』だけでなく有効に機能する状態を保つことが重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-016 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「営業所の事業用自動車を大幅に増車する計画がある。事業計画変更の手続と同時に、運行管理面で優先して確認すべき事項はどれか。」に対し、回答「増車前に選任していた運行管理者の人数は固定されるため、配置基準の再確認は不要である。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「運転者台帳の作成・管理について、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「一度作成した運転者台帳は、その後に必要事項が変わっても更新する必要はない。」とした。

A. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

E. 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者の必要数は営業所の事業用自動車数に応じて変動するため、増車時は再確認が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。必要事項に変更があれば適切に反映し、実態に即した管理が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-017 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業者の名義利用に関する記述として正しいものはどれか。」に対し、回答「事業者は、自己の名義を他人に一般貨物自動車運送事業のため利用させてはならない。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「乗務等の記録を運行管理に活用する目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故が発生した運転者の記録だけを確認し、他の運転者の乗務実態は把握しない。」とした。

A. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事業名義の他人利用は法で禁止される。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故発生者だけでなく、平常時から全体の運行実態を把握する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-018 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業を他の事業者へ譲渡しようとする場合の法的取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「当事者間の譲渡契約が成立すれば、事業許可上の地位も当然に移るため行政手続は不要である。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「乗務前・乗務後の点呼を通常どおり営業所で対面実施できない長距離運行等について、運行管理者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「口頭で『気をつけて』と言えば、法定書類は常に不要である。」とした。

A. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。私法上の譲渡契約だけで許可事業上の地位が当然に移転するわけではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法令上必要な場合、口頭だけでは足りない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-019 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業者が、その事業を休止または廃止しようとする場合の届出時期として正しいものはどれか。」に対し、回答「休止・廃止は届出ではなく、必ず国土交通大臣の認可を受けなければならない。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「運行指示書を作成した運行で、途中に運行経路や休憩地点等の変更が必要になった。運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「必要な変更内容を適切に指示し、法令に従って運行指示書の写し等に記録し、運転者側にも反映させる。」とした。

A. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。休止・廃止は認可制度ではなく、法定時期までの届出制度。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運行途中の変更も相互の記録と指示が重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-020 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業の許可取消し等の行政処分について正しいものはどれか。」に対し、回答「行政処分は事業者の希望により、警告・停止・取消しの中から自由に選択できる。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「日常的な運転者教育について、運行管理者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「法令や安全運転に関する指導はすべて運転者同士に任せる。」とした。

A. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

E. 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。行政処分は法令と処分基準等に基づいて行政庁が行うもので、事業者が選ぶ制度ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者等の責任ある指導が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-021 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「貨物自動車運送事業者の輸送の安全に関する基本的な責務として正しいものはどれか。」に対し、回答「必要な措置を講じ、絶えず輸送の安全性の向上に努める。」とした。
- B.【運行管理者の業務】設問「新たに常時選任する運転者等に対する運行管理として適切なものはどれか。」に対し、回答「事故歴は運行管理に一切利用してはならない。」とした。
- ア. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい／運行管理者の業務の回答は誤り。
- イ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り／運行管理者の業務の回答は正しい。
- ウ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい／運行管理者の業務の回答は正しい。
- エ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り／運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事業者には継続的な輸送安全性向上の責務がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故歴等は適切な指導監督のため重要な情報。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-022 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「輸送の安全に関する情報公開を行う意義として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故件数だけを公表すれば足り、安全方針や安全対策の内容は一切関係しない。」とした。
- B.【運行管理者の業務】設問「点呼で運転者に強い眠気と体調不良が認められ、安全運転が困難なおそれがある。運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「予定時刻優先で点呼記録を消去して出発させる。」とした。
- ア. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい／運行管理者の業務の回答は正しい。
- イ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り／運行管理者の業務の回答は誤り。
- ウ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り／運行管理者の業務の回答は正しい。
- エ. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい／運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全情報は事故件数だけに限定して考えるものではなく、安全方針や取組等も重要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。記録消去や無理な出発は不適切。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-023 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「事業者が「運行管理者を選任したので、経営側は輸送の安全に関与しなくてよい」と考えた。この考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「正しい。運行管理者を選任すれば事業者の責務は消滅する。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「運行管理者の安全管理として適切なものはどれか。」に対し、回答「過積載運行を防止するため、積載状況を把握し必要な指導・指示を行う。」とした。

A. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。選任により事業者の責務がなくなるわけではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。過積載防止は貨物運送の安全管理上の重要事項。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-024 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「輸送の安全性向上の取組として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「安全に関する取組を一度作成した後は、結果を確認せず固定する。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「補助者を選任して運行管理業務を補助させる場合、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「補助者がいれば運行管理者を選任しなくてよい。」とした。

A. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

E. 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全性向上は継続的な取組。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。補助者は法定運行管理者の代替ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-025 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転等の防止】設問「一般貨物自動車運送事業者の過労運転防止措置として正しいものはどれか。」に対し、回答「国が定める基準に従い、休憩・睡眠・休息が十分確保されるよう勤務時間や乗務時間を定め、運転者に遵守させる。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「点呼で日常点検の結果に問題があることが判明した場合の運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主の納期が迫っていれば点検不良を無視する。」とした。

A. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

U. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。過労防止のため勤務時間・乗務時間を適切に設定し遵守させる必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。納期より安全確保を優先する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-026 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転等の防止】設問「長距離または夜間の運転で、運転者が疲労等により安全な運転を継続できないおそれがある場合の事業者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主が了承すれば疲労状態でも運行を続けさせてよい。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「運行管理者と事業者の関係について正しいものはどれか。」に対し、回答「運行管理者は事業者の代表権を当然に持つ。」とした。

A. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

I. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主の了承は法令上の安全義務に代わらない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者であるだけで会社代表権を得るわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-027 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転等の防止】設問「運転者が疾病により安全な運転ができないおそれがある場合、事業者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者不足なら疾病の程度にかかわらず乗務を命じる。」とした。

B.【運行管理者の業務】設問「荷主から『納期を優先し、法令上必要な休息を削って運行させてほしい』との要望を受けた。運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「法令・運行管理規程に従い、安全を確保できない運行は認めず、必要な運行計画の見直し等を行う。」とした。

A. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は誤り。

I. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は誤り。

U. 過労運転等の防止の回答は誤り / 運行管理者の業務の回答は正しい。

E. 過労運転等の防止の回答は正しい / 運行管理者の業務の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者不足を理由に、安全な運転が困難なおそれのある者を乗務させてはならない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運行管理者は法令・規程に基づき、安全確保を優先した判断を行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-028 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「一般貨物自動車運送事業者が独自の運送約款を定める場合の基本的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運送約款は社内文書なので、荷主に提示すれば行政上の手続は不要である。」とした。

B.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「1つの営業所に複数の運行管理者を選任している場合、統括運行管理者の位置付けとして正しいものはどれか。」に対し、回答「統括運行管理者を選任すると、運行管理者の法定必要人数を1人減らすことができる。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送約款は契約条件を定める重要なもので、独自約款には法定の認可手続がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。統括運行管理者は必要人数の計算を減らすための制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-029 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「国土交通大臣が定めて公示した標準運送約款と同一の運送約款を定める場合の扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「法令上、標準運送約款と同一のものを定めた場合には、認可を受けたものとみなされる仕組みがある。」とした。

B.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「営業所で運行管理者の補助者を新たに選任する。候補者として適切なものはどれか。」に対し、回答「会社の役員であれば、講習受講や資格に関係なく補助者になれる。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。標準運送約款と同一の約款を定める場合のみなし認可の仕組み。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。役職だけで補助者要件を満たすことにはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-030 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「認可を受けた独自の運送約款の内容を変更する場合、原則として必要となる手続はどれか。」に対し、回答「変更後に荷主へ通知すれば足り、行政上の手続は不要である。」とした。

B.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「補助者に運行管理業務を補助させる場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「補助者は運行管理者の資格者証を自動的に取得する。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主への周知と法定の認可手続は別である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。補助者選任で資格者証が自動交付されるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-031 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「一般貨物自動車運送事業者が運賃・料金を設定または変更した場合の届出について、現在の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「変更額が小さい場合は、事業者の判断だけで届出を省略できる。」とした。

B.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「運行管理規程を定める目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行管理者の職務・権限、補助者の職務や選任方法などを明確にし、運行管理を組織的に行うため。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。変更額の大小だけを理由に事業者が任意に届出を省略できる制度ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運行管理規程は職務・権限や補助体制等を明確にし、実効的な運行管理を行う基盤となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-032 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「運送約款の認可に関する考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運送約款には事業者の責任に関する事項を定めず、すべて個別契約に委ねなければならない。」とした。

B.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「運行管理規程には『点呼異常時は統括運行管理者へ報告する』と定めているが、現場では誰も報告していない。適切な対応はどれか。」に対し、回答「異常があっても記録しなければ違反にならない。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り / 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送約款は運送条件や責任関係を明確にする役割を持ち、責任事項をすべて排除するものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。記録をしないことは問題を隠すだけである。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-033 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「新サービスの開始に伴い、独自の運送約款と運賃・料金の双方を変更する場合の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「運送約款の変更と運賃・料金の変更について、それぞれ該当する法定手続を確認して行う。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「一般貨物自動車運送事業者が、通常の業務前点呼で確認すべき事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転免許証の更新予定日だけを確認し、健康状態は本人の自己管理に任せる。」とした。

A. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

I. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

U. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。約款と運賃・料金は別の制度として、それぞれ必要な手続を確認する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。免許関係だけでなく、疾病・疲労・睡眠不足等の安全に直結する状態を確認する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-034 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「一般貨物自動車運送事業の営業所で、被けん引車を除く事業用自動車が29両である。原則として必要な運行管理者数の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「3人必要である。30両未満でも3人を置く規定だからである。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「運行上やむを得ない場合に電話その他の方法で点呼を行うことが認められる場合の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「点呼担当者が寝坊した場合であれば、場所にかかわらず認められる。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。29両で3人を必要とする基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。人的な勤務管理上の事情だけで「運行上やむを得ない場合」になるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-035 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「ある営業所は事業用自動車45両を運行管理し、現在の運行管理者は1人である。法定の最低配置基準を満たすための対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「現状の1人で足りる。59両までは1人だからである。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「電話その他の方法で点呼を行う場合の取扱いとして、正しいものはどれか。」に対し、回答「運転中の運転者に対して点呼を行ってはならず、安全に停止した状態などで実施する必要がある。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。30両～59両は原則2人必要。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。電話等の方法であっても、運転中に点呼を実施してはならない。点呼は安全な状態で必要な確認・報告・指示を確実に行う必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-036 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所の事業用自動車が59両から60両へ増車される予定で、運行管理者は2人選任されている。増車に伴う対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「補助者を1人増やせば、運行管理者2人のままで必ず足りる。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務後点呼の内容として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「車両に故障がなかった場合は、道路や運行の状況の報告を求めなくてよい。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。補助者は法定の運行管理者必要数そのものには算入できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。車両故障の有無だけでなく、道路及び運行の状況を把握することが必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-037 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「同一事業者にA営業所（事業用自動車28両）とB営業所（同118両）がある。各営業所で原則必要な最低運行管理者数を合計したものとして正しいものはどれか。」に対し、回答「5人。A営業所は1人、B営業所は4人必要となる。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前と業務後のいずれについても、運行上やむを得ない理由により通常の対面等の点呼を行えない運行を行わせる場合の措置として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務後に日報を提出させれば、運行途中の点呼に代えることができる。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。配置基準は営業所ごとに適用し、28両は1人、118両は4人で合計5人。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事後の日報提出は、運行途中に行う安全確認の代替にはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-038 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「貨物の運行管理者必要数を算定する際の車両数について、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「従業員の私有車もすべて数える。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「中間点呼の要否に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務前点呼が電話になった時点で、必ず中間点呼を3回行う。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。従業員私有車は算定対象ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。中間点呼の回数を一律3回とする規定ではなく、要件も片方だけで自動的に成立するものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-039 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「事業用自動車が5両未満の営業所について、運行管理者の選任義務に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「5両未満でも必ず3人以上選任しなければならない。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前点呼の実施時期について、正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者がその日の業務を開始する前に実施し、運行に出す前に安全上必要な確認・指示を行う。」とした。

ア. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

イ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

ウ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

エ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。3人以上を一律に求める基準ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務前点呼は、運転者が業務を開始する前に健康状態、酒気帯び、日常点検等を確認し、安全に運行させられるかを判断するために行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-040 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「運行管理者の配置基準について正しいものはどれか。」に対し、回答「会社全体で1人選任すれば、営業所数や車両数に関係なく足りる。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「点呼における酒気帯びの有無の確認方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「前日の終業時に確認していれば、翌朝の業務前点呼では確認しなくてよい。」とした。

ア. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

イ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

ウ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

エ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。会社全体で一律1人という基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。酒気帯び確認は業務前・業務後それぞれの点呼で必要となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-041 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「1つの営業所に複数の運行管理者を選任する場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運行管理業務を統括する統括運行管理者を選任する。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「点呼の実施に関する説明として、正しいものはどれか。」に対し、回答「荷主が出発時刻を確認した場合は、事業者の点呼に代えることができる。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。複数の運行管理者を選任する営業所では統括運行管理者を選任する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主による出発確認は、貨物運送事業者が行う法定点呼の代替にならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-042 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所の事業用自動車29両から30両に増える。運行管理体制として適切な対応はどれか。」に対し、回答「29両と30両では必要数は全く変わらない。」とした。

B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「日常点検と業務前点呼の関係として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「日常点検をした車両では、業務前点呼そのものが不要になる。」とした。

A. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

I. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

U. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

E. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。30両で原則2人となる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。日常点検と点呼は別の安全管理手続であり、日常点検だけで点呼を省略できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-043 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所で必要な運行管理者数が2人であるのに、退職により1人しかいない状態となった。事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主に了承を得れば不足状態を解消したことになる。」とした。
- B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「運転者Aが業務後点呼で「山間部の道路が凍結し、制動時に滑りやすかった」と報告した。直後に同じ方面へ運転者Bを出発させる場合の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「報告内容を把握し、必要に応じて運転者Bへ道路状況や注意事項を通告して安全運行につなげる。」とした。
- ア. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。
- イ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。
- ウ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。
- エ. 選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主の了承は法定配置基準に代わらない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務後点呼で把握した道路・運行上の危険情報は、次の運行の安全確保

に活用する必要がある。必要な情報を交替運転者へ引き継ぐことが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-044 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験に合格した者が、運行管理者資格者証の交付を受けるための考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「試験合格後は、所属事業者が資格者証を独自に発行する。」とした。
- B.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前点呼で、運転者が強い眠気を訴え、会話中も頻繁に目を閉じていることが確認された。運行管理上最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「運転者の健康状態は点呼事項ではないため、配車予定を優先する。」とした。
- ア. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。
- イ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい。
- ウ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。
- エ. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。資格者証は事業者が独自発行するものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。健康状態は業務前点呼の重要な確認事項であり、安全確保が配車予定に優先する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-045 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者資格者証について、試験合格以外の交付要件として適切なものはどれか。」に対し、回答「運行管理に関する5年以上の実務経験があり、その間に所定の講習を5回以上受講し、少なくとも1回は基礎講習を受けるなどの要件を満たす。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「対面で点呼できない場合に用いる「電話その他の方法」の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「前日にFAXで体調表を送れば、翌日の点呼は不要となる。」とした。

A. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

I. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

U. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

E. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。貨物では実務経験等による交付ルートがある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事前のFAX送信は、その時点の点呼に代わるものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-046 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験の新規受験資格として正しいものはどれか。」に対し、回答「貨物事業者の代表取締役である。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「どのような無料通話アプリでも、接続できれば自動的に遠隔点呼として認められる。」とした。

A. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

I. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

U. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

E. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。役職は受験資格ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。遠隔点呼には所定の機器・運用要件があり、単なる通話アプリの利用だけで制度要件を満たすわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-047 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【資格者証・返納・講習】設問「運行管理者資格者証の返納命令について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「会社を退職しただけで必ず国から返納命令を受ける。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「他の貨物自動車運送事業者の営業所等との間で遠隔点呼を行う場合の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「他事業者との間で点呼業務を行う場合は、所定の管理受委託等の許可関係を満たす必要がある。」とした。

ア. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

イ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

ウ. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

エ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。退職だけで当然に返納命令となるものではない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。遠隔点呼は自社内だけでなく一定の場合に他事業者との間でも可能だが、他事業者に運行管理業務を委ねる場合は法令上の管理受委託等の要件を満たす必要がある。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-048 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【資格者証・返納・講習】設問「選任した運行管理者に対する運行管理者講習について、国土交通省が示す基本的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「一般講習は運転免許更新時だけ受ければよく、選任期間とは関係ない。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「業務前自動点呼に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「業務前自動点呼では、運転者の本人確認をしてはならない。」とした。

ア. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

イ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

ウ. 資格者証・返納・講習の回答は正しい／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

エ. 資格者証・返納・講習の回答は誤り／電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者講習は運転免許更新制度とは別の制度。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。本人確認等は適切な点呼の基礎であり、禁止されるものではない。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-049 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【資格者証・返納・講習】設問「貨物の運行管理者試験に合格した者が資格者証の交付を申請する時期について、現在の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「合格の日から3か月以内に、運行管理者資格者証の交付申請を行う必要がある。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「認定機器を利用して、運転者の業務終了後の確認を自動化する「業務後自動点呼」について、正しいものはどれか。」に対し、回答「業務後自動点呼は、運転者が帰庫する前に運転中の車内で行う制度である。」とした。

A. 資格者証・返納・講習の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

I. 資格者証・返納・講習の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

U. 資格者証・返納・講習の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

E. 資格者証・返納・講習の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運輸局の現行案内では、試験合格による資格者証交付申請は合格の日から3か月以内とされている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転中に点呼する制度ではなく、業務後に安全な状態で行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-050 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「事業計画に基づいて安全な運行を継続するため、運行管理者が運転者の選任について行う業務として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者の選任・確保は荷主の責任であり、事業者側の運行管理とは無関係である。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼又は自動点呼を新たに開始しようとする場合の届出時期として、原則として適切なものはどれか。」に対し、回答「開始後30日以内であればよく、事前届出は不要である。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

I. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

U. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

E. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者の選任は貨物運送事業者側の運行管理に関わる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。開始届は事後ではなく、原則として開始予定日の10日前までに行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-051 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「乗務前後等の点呼に関し、運行管理者の処理として正しいものはどれか。」に対し、回答「点呼は事故発生後だけ行う。」とした。
- B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼・自動点呼の届出後に、届出事項を変更又は実施を終了する場合の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「変更は原則として変更前に届出を行い、終了した場合は遅滞なく所定の届出を行う。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。
- イ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。
- エ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。点呼は日常の乗務前後等に行う。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。開始だけでなく、届出内容の変更や実施終了にも手続がある。変更前の届出と、終了後の遅滞ない届出を区別することが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-052 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「営業所で使用するアルコール検知器の管理について、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「アルコール検知器は故障していても営業所に置いてあればよい。」とした。
- B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「2026年時点の貨物自動車運送事業における点呼方法の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「IT機器を用いる点呼はすべて禁止され、必ず同じ部屋で対面しなければならない。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。
- イ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。
- エ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。機器は常時有効に保持する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。要件を満たす遠隔点呼・自動点呼が認められているため、一律禁止ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-053 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「運転者台帳の作成・管理について、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「法令に基づき運転者台帳を作成し、必要事項を記録して営業所で適切に管理する。」とした。
- B.【点呼記録・保存】設問「貨物自動車運送事業における点呼記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「3年間保存する。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は誤り。
- イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- エ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運転者台帳は運転者の資格・事故歴・指導等を継続的に把握するための法定記録。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故記録や運転者等台帳などには3年保存のものがあるが、点呼記録は1年である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-054 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「乗務等の記録を運行管理に活用する目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「記録は保存期間を満たすことだけが目的であり、運行実態の分析に使ってはならない。」とした。
- B.【点呼記録・保存】設問「点呼記録に記載又は記録すべき基本事項の組合せとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主名、運賃額、売上高だけである。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は誤り。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- エ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。記録は法定保存に加え、安全管理へ活用することが重要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。営業情報だけでは点呼の実施状況を確認できず、必要な記録事項を満たさない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-055 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「乗務前・乗務後の点呼を通常どおり営業所で対面実施できない長距離運行等について、運行管理者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主が運行指示書を作れば、事業者側は確認しなくてよい。」とした。

B.【点呼記録・保存】設問「運転者Cの出発前点呼を記録する際、業務開始前に確認した内容として記録すべき事項を正しく示しているものはどれか。」に対し、回答「酒気帯びの有無、疾病・疲労・睡眠不足等の状況、日常点検の実施状況、指示事項など、業務前に確認した内容を記録する。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は誤り。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は誤り。

U. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は正しい。

E. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理は事業者・運行管理者側の責務。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務前点呼では、運転者を安全に乗務させられるかという観点から確認した事項と必要な指示を記録する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-056 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「運行指示書を作成した運行で、途中に運行経路や休憩地点等の変更が必要になった。運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「変更があっても元の指示書を一切修正してはならない。」とした。

B.【点呼記録・保存】設問「業務後点呼記録に特に反映すべき内容として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行中の道路状況は口頭で聞けば足り、記録には残してはならない。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は正しい。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は正しい。

U. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は誤り。

E. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運行上の変更に対応する手続が定められている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。必要な報告・確認内容は点呼記録として残す必要があり、記録禁止ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-057 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「日常的な運転者教育について、運行管理者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「事業者の指導監督方針等に基づき、運転者に対する適切な指導・監督を行う。」とした。
- B.【点呼記録・保存】設問「点呼記録の保存方法について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「紙でなければ点呼記録として一切認められない。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は誤り。
- イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 点呼記録・保存の回答は正しい。
- エ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 点呼記録・保存の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運転者指導・監督は運行管理者の重要業務。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。法令上の要件を満たす電子的な記録・保存も可能である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-058 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行管理者の業務】設問「新たに常時選任する運転者等に対する運行管理として適切なものはどれか。」に対し、回答「適性診断は本人が希望しない限り、法令上の対象者でも受けさせなくてよい。」とした。
- B.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「一般貨物自動車運送事業者の運転者の選任について、正しいものはどれか。」に対し、回答「繁忙期だけ必要数をそろえれば、通常期は運転者が不足していてもよい。」とした。
- ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。
- イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。
- ウ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。
- エ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。対象者には法令に基づく措置が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。必要な運転者は常時確保する必要があり、通常期の不足を前提とする運用は適切でない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-059 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「点呼で運転者に強い眠気と体調不良が認められ、安全運転が困難なおそれがある。運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「本人が『行ける』と言えば必ず乗務させる。」とした。

B.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「事業用貨物自動車の運転者としての選任に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「日々雇い入れられる者や、一定の短期雇用者など、法令で定める不安定な雇用形態の者を原則として選任してはならない。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

U. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

E. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。自己申告だけで安全性を確保できない場合がある。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。安全教育や健康管理を継続的に行う観点から、日々雇用や一定の短期雇用などの者には選任制限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-060 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「運行管理者の安全管理として適切なものはどれか。」に対し、回答「過積載は道路交通法だけの問題なので運行管理者は関与しない。」とした。

B.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「試用期間中の者を事業用貨物自動車の運転者として選任する場合の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「試用期間中かどうかは運転者選任と全く関係がない。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

U. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

E. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者も過積載防止に関する業務を担う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。試用期間中の者は選任制限の対象として規定されている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-061 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「補助者を選任して運行管理業務を補助させる場合、運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「補助者に対して必要な指導・監督を行い、適切に補助業務が行われる体制を整える。」とした。

B.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「運転者等台帳に記載又は記録する事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「氏名だけを記載し、免許や健康に関する情報は一切記載しない。」とした。

ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

ウ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

エ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。補助者の適切な業務遂行を指導・監督する。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。免許や健康、事故・教育等の所定事項も管理する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-062 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「点呼で日常点検の結果に問題があることが判明した場合の運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主の納期が迫っていれば点検不良を無視する。」とした。

B.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「運転者が退職等により事業用自動車の運転者でなくなった場合の運転者等台帳の取扱いとして、正しいものはどれか。」に対し、回答「退職当日に必ず廃棄する。」とした。

ア. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

イ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

ウ. 運行管理者の業務の回答は誤り / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい。

エ. 運行管理者の業務の回答は正しい / 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。納期より安全確保を優先する。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者でなくなった後も台帳には保存義務があるため、即時廃棄はできない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-063 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「運行管理者と事業者の関係について正しいものはどれか。」に対し、回答「運行管理者は事業者の代表権を当然に持つ。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「特別な指導及び所定の適性診断の対象となる代表的な運転者の組合せとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故惹起運転者、初任運転者、高齢運転者である。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

U. 運行管理者の業務の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 運行管理者の業務の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者であるだけで会社代表権を得るわけではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。事故惹起運転者、初任運転者、高齢運転者は、それぞれのリスクに応じた特別な指導と適性診断の対象となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-064 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行管理者の業務】設問「荷主から『納期を優先し、法令上必要な休息を削って運行させてほしい』との要望を受けた。運行管理者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「荷主の要望は運行管理規程より優先されるため、そのまま運行を指示する。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「一般貨物自動車運送事業者が新たに雇い入れた運転者について、初任診断を受診させる時期として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「本人が希望した場合だけ受診させればよい。」とした。

A. 運行管理者の業務の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

I. 運行管理者の業務の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

U. 運行管理者の業務の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

E. 運行管理者の業務の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主の要望が法令や運行管理規程に優先することはない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。対象となる初任運転者には、事業者が所定の診断を受けさせる必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-065 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「1つの営業所に複数の運行管理者を選任している場合、統括運行管理者の位置付けとして正しいものはどれか。」に対し、回答「複数の運行管理者の業務を統括し、営業所内の運行管理体制を調整する。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「貨物自動車運送事業の高齢運転者に対する適齢診断の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「70歳を超えてから毎月1回受診させる。」とした。

A. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

I. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

U. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。複数の運行管理者を選任する営業所では、その業務を統括する者を選任する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。毎月受診する制度ではなく、65歳到達後とその後3年以内ごとの周期である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-066 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「営業所で運行管理者の補助者を新たに選任する。候補者として適切なものはどれか。」に対し、回答「運転経験が長ければ、運行管理に関する講習や資格の有無にかかわらず誰でもよい。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「死亡又は重傷事故を起こした運転者について、当該事故前1年間に事故歴がない場合などに受診させる診断として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「一般診断だけで必ず足りる。」とした。

A. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

I. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

U. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転経験の長さだけでは補助者の知識要件を満たさない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故惹起運転者には事故状況に応じた特定診断が必要となり、一般診断だけで代替できるとは限らない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-067 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「補助者に運行管理業務を補助させる場合の考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「補助者は事業者の許可取消しを決定できる。」とした。
- B.【特別な指導・適性診断】設問「死亡又は重傷事故を起こした運転者で、当該事故前1年間にも事故を起こしている者に対する適性診断として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「特定診断IIの対象となる。」とした。
- ア. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。
- イ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。
- ウ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。
- エ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。行政処分を決定する権限はない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。死亡・重傷事故を起こし、さらに事故前1年間にも事故歴があるなど、

より高い再発防止措置が必要な場合は特定診断IIの対象となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-068 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「運行管理規程を定める目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主ごとの運賃を決めることだけを目的とし、安全管理の手順は扱わないため。」とした。
- B.【特別な指導・適性診断】設問「適性診断のうち「一般診断」に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「一般診断の結果は安全指導に利用してはならない。」とした。
- ア. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。
- イ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。
- ウ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。
- エ. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運賃表ではなく、安全な運行管理体制を定める規程。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。診断結果は運転者の特性を理解し、指導に活用するために有用である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-069 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【統括運行管理者・補助者・運行管理規程】設問「運行管理規程には『点呼異常時は統括運行管理者へ報告する』と定めているが、現場では誰も報告していない。適切な対応はどれか。」に対し、回答「規程に沿って業務が行われるよう指導・監督し、必要なら体制や規程を見直して実効性を確保する。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「適性診断結果の活用方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「診断結果が良ければ、その後の安全教育をすべて免除する。」とした。

A. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

I. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

U. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 統括運行管理者・補助者・運行管理規程の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。規程と実運用を一致させ、適確な運行管理を行う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。診断結果の良否にかかわらず、必要な指導監督を継続する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-070 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「一般貨物自動車運送事業者が、通常の業務前点呼で確認すべき事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「前日の売上額と荷主の支払条件だけを確認すればよい。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「新たに雇い入れた運転者が、過去の事故歴により特定診断の対象にも該当する場合の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「対象が重なった場合は、すべての診断が自動的に免除される。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。売上や支払条件は点呼の安全確認事項ではなく、これだけでは点呼の目的を満たさない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。対象が重なっても診断義務自体がなくなるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-071 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「運行上やむを得ない場合に電話その他の方法で点呼を行うことが認められる場面の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「早朝又は深夜の運行であれば、すべて電話点呼に置き換えてよい。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「65歳以上の者を新たに運転者として雇い入れ、初任運転者と高齢運転者の双方に該当する場合の適性診断について、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「所定の適齢診断を受診させた場合、条件により初任診断として取り扱える。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。時間帯だけを理由に通常の対面等の点呼義務を外すことはできない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。新たに雇い入れた高齢運転者については、適齢診断を所定の初任診断に充てることができる取扱いがある。診断の目的を重ねて効率的に満たす制度である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-072 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「電話その他の方法で点呼を行う場合の取扱いとして、正しいものはどれか。」に対し、回答「高速道路を走行中でも、交通量が少なければ点呼してよい。」とした。

B.【特別な指導・適性診断】設問「新たに雇い入れた運転者を初めて事業用貨物自動車に乗務させる前の事故歴把握として、原則的に最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故歴は個人情報なので、事業者は一切把握してはならない。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は正しい。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 特別な指導・適性診断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。交通量の多少ではなく、運転中に点呼を実施しないことが重要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。安全管理上、所定の事故歴を把握して指導・診断対象を判断する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-073 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務後点呼の内容として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者から自動車、道路及び運行の状況について報告を求め、酒気帯びの有無等を確認し、必要に応じて交替運転者への通告を行う。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者に疾病、著しい疲労又は睡眠不足があり、安全な運転ができないおそれがあると認められる場合の措置として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主が急いでいる場合だけは乗務させてよい。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

イ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

ウ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

エ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務後点呼では、運行結果を把握するため自動車・道路・運行の状況の報告を受けるとともに、酒気帯びの有無等を確認し、必要な情報を次の運転者へ引き継ぐ。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主都合は、安全運転が困難な者を乗務させる理由にならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-074 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前と業務後のいずれについても、運行上やむを得ない理由により通常の対面等の点呼を行えない運行を行わせる場合の措置として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務後に日報を提出させれば、運行途中の点呼に代えることができる。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者の健康状態を日常的に把握する主な目的として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「給与査定を低くするためだけに行う。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

イ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

ウ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

エ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事後の日報提出は、運行途中に行う安全確認の代替にはならない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。健康状態把握の主目的は安全運行の確保であり、給与査定だけを目的とするものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-075 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「中間点呼の要否に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務前点呼が電話になった時点で、必ず中間点呼を3回行う。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者等台帳の健康状態に関する記録方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「健康診断個人票等の写しを台帳に添付するなど、健康状態を確認できる方法で管理することができる。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り／健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい／健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り／健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい／健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。中間点呼の回数を一律3回とする規定ではなく、要件も片方だけで自動的に成立するものではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。健康状態の記録は、所定の情報を追跡できる形で管理する必要があり、健康診断関係書類の写しを活用する方法も認められる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-076 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前点呼の実施時期について、正しいものはどれか。」に対し、回答「月初に全運転者をまとめて確認すれば、その月の業務前点呼は不要である。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者に対する一般的な指導及び監督について、実施日時、場所、内容、指導者等を記録した記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「保存義務はない。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り／健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい／健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい／健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り／健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。点呼は各業務に対応して実施するもので、月1回の一括確認で代替できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。指導監督については実施内容等を記録し、保存する義務がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-077 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「点呼における酒気帯びの有無の確認方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者の状態を目視等で確認するとともに、アルコール検知器を用いて確認する。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「遠隔点呼だけを長期間受け、自営業所の運行管理者等と直接接する機会が少ない運転者の健康状態や指導状況を把握するための取組として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「機器の接続ログだけ確認し、本人とは一切会話しない。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。酒気帯びの有無は、運転者の顔色・呼気の臭い等の状態を確認するとともに、アルコール検知器を用いて客観的に確認することが基本である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。接続記録だけでは、健康状態や指導上の変化を十分に把握できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-078 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「点呼の実施に関する説明として、正しいものはどれか。」に対し、回答「点呼は運転技術の優れた運転者に限り免除できる。」とした。

B.【健康状態の把握・指導監督】設問「一般貨物自動車運送事業者が運転者に行う一般的な指導内容として、貨物運送特有の観点を含むものはどれか。」に対し、回答「商品販売の営業トークだけを練習させる。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転技術や経験を理由として法定の点呼を免除する制度ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。営業トークは運転者への法定安全指導の中心内容ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-079 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「日常点検と業務前点呼の関係として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務前点呼をした場合は、日常点検を実施しなくてもよい。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「貨物自動車運送事業輸送安全規則上、運行記録計による記録の対象となる普通自動車の重量基準として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「車両総重量7トン以上又は最大積載量4トン以上である。」とした。

ア. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

イ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

ウ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

エ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。点呼を行っても、必要な日常点検が免除されるわけではない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。運行記録計の対象となる代表的な重量基準は、車両総重量7トン以上又は最大積載量4トン以上である。業務記録の積載状況記録に関する8トン・5トン基準と混同しない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-080 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「運転者Aが業務後点呼で「山間部の道路が凍結し、制動時に滑りやすかった」と報告した。直後に同じ方面へ運転者Bを出発させる場合の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「Aの運行は終了しているため、Bには何も伝えない。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計で記録する基本的な事項として正しい組合せはどれか。」に対し、回答「車体色、タイヤ銘柄及び洗車回数だけである。」とした。

ア. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

イ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

ウ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

エ. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。把握した危険情報を次の運行に活用しないのは、安全管理上不適切である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。これらは瞬間速度等の運行実態記録に該当しない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-081 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【対面点呼（業務前・業務後・中間）】設問「業務前点呼で、運転者が強い眠気を訴え、会話中も頻繁に目を閉じていることが確認された。運行管理上最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「安全な運転ができないおそれがあるため、乗務させないことを含めて必要な措置を講じる。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計による記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「3年間保存する。」とした。

A. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

I. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

U. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

E. 対面点呼（業務前・業務後・中間）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。疾病、疲労、睡眠不足等により安全な運転ができないおそれがある運転者をそのまま乗務させてはならない。点呼は異常を発見して適切な措置につなげるために行う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故記録など3年保存の資料と異なり、運行記録計の記録は1年保存である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-082 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「対面で点呼できない場合に用いる「電話その他の方法」の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者が一方的にメールを送信すれば、それだけで電話点呼と同等になる。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「「業務の記録」で積載状況等を記録する重量基準と、「運行記録計」の対象となる重量基準の関係として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「両者とも車両総重量10トン以上だけを対象とし、最大積載量は無関係である。」とした。

A. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

I. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

U. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

E. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。一方向のメール送信だけでは、直接対話しながら確認・指示を行うことができない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。両制度ともそのような10トン単一基準ではなく、最大積載量も基準に含まれる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-083 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「遠隔点呼は、運転者が運転中に映像を送る方法に限られる。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計を使用している車両の「業務の記録」に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行記録計で把握できる事項を活用できるが、法令上必要で運行記録計だけでは分からない事項は別途記録する必要がある。」とした。

ア.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

イ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

ウ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

エ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転中に点呼を行うものではなく、安全な状態で所定の方法により実施する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。デジタコ等を導入しても、必要な業務記録の全項目が自動的に満たされるとは限らない。機器で取得できない休息地点や積載・異常遅延等の必要事項は補完する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-084 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「他の貨物自動車運送事業者の営業所等との間で遠隔点呼を行う場合の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「他事業者との遠隔点呼は、法律上どのような場合でも禁止されている。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「貨物自動車運送事業において運行指示書の作成・携行が特に必要となる運行として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「積荷が空車のときだけ作成する。」とした。

ア.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

イ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

ウ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

エ.電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。所定の要件を満たせば実施可能であり、一律禁止ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。積荷の有無だけで運行指示書の作成要否が決まるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-085 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「業務前自動点呼に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「国土交通省が認定する要件適合の自動点呼機器を用い、定められた運用要件に従って実施する。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「貨物の運行指示書に記載する事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者の趣味だけを記載し、経路は記載しない。」とした。

ア. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

イ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

ウ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

エ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務前自動点呼は、認定機器と所定の運用要件を前提として認められる制度である。単なる体温計やアルコール検知器の自動記録だけでは足りない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。経路等の運行管理事項を記載する必要がある、趣味は記載事項ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-086 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「認定機器を利用して、運転者の業務終了後の確認を自動化する「業務後自動点呼」について、正しいものはどれか。」に対し、回答「業務後自動点呼は、運転者が帰庫する前に運転中の車内で行う制度である。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「作成した運行指示書の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事業者だけが保管し、運転者には内容を知らせない。」とした。

ア. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

イ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

ウ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

エ. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転中に点呼する制度ではなく、業務後に安全な状態で行う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者が運行中の指示内容を確認できず、運行指示書の目的を果たさない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-087 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼又は自動点呼を新たに開始しようとする場合の届出時期として、原則として適切なものはどれか。」に対し、回答「開始後30日以内であればよく、事前届出は不要である。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「運行中に大雪で予定経路を変更するが生じ、運行指示書の内容を変更する場合の対応として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事業者は電話等で変更内容を運転者に指示し、事業者が保有する写しと運転者が携行する運行指示書の双方に変更内容を記録する。」とした。

A. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

I. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

U. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

E. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。開始届は事後ではなく、原則として開始予定日の10日前までに行う。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。運行指示書を途中変更する場合は、変更内容を確実に伝え、事業者側と運転者側の双方の記録を一致させることが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-088 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「遠隔点呼・自動点呼の届出後に、届出事項を変更又は実施を終了する場合の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「一度開始届を出した後は、変更・終了に関する届出は一切不要である。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「出発時には通常の運行予定で運行指示書を必要としなかったが、災害による長時間の迂回で業務終了時も営業所へ戻れず、途中点呼を要する運行へ変更となった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「荷主に連絡しただけで、事業者側の運行管理措置はすべて不要となる。」とした。

A. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

I. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

U. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

E. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。届出事項の変更や実施終了にも所定の手続が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主への連絡と、事業者の法定運行管理は別である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-089 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「2026年時点の貨物自動車運送事業における点呼方法の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「所定の要件を満たせば、遠隔点呼に加え、業務前自動点呼及び業務後自動点呼も制度上利用できる。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「貨物の運行指示書及びその写しの保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「必ず10年間保存する。」とした。

A. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

I. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

U. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

E. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。現行制度では、要件を満たした遠隔点呼だけでなく、業務前・業務後の自動点呼も制度化されている。古い「IT点呼」だけの理解に固定しないことが重要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。一律10年ではなく、運行終了日から1年である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-090 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼記録・保存】設問「貨物自動車運送事業における点呼記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「保存義務はなく、当日確認後に廃棄できる。」とした。

B.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「運行指示書の作成・保存方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行指示書は必ず手書きの紙でなければならない、電子化は一切認められない。」とした。

A. 点呼記録・保存の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

I. 点呼記録・保存の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

U. 点呼記録・保存の回答は誤り / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい。

E. 点呼記録・保存の回答は正しい / 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。点呼記録には保存義務があるため、当日廃棄はできない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。所定の要件を満たす電磁的方法の利用が可能であり、紙に限定されない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-091 難易度2

貨物の点呼記録について、保存期間として正しいものはどれか。

- ア. 3か月
- イ. 6か月
- ウ. 1年間
- エ. 5年間

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。3か月ではない。

イ：誤り。6か月ではない。

ウ：正しい。点呼記録は1年間保存する。

エ：誤り。5年間ではない。

総合解説：点呼では実施・確認・指示の内容等を記録し、その記録を1年間保存する。

UK01-PDF-092 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼記録・保存】設問「運転者Cの出発前点呼を記録する際、業務開始前に確認した内容として記録すべき事項を正しく示しているものはどれか。」に対し、回答「業務後に判明した配送先の売上だけを記録し、健康状態は記録しない。」とした。

B.【事故の記録・保存期間】設問「事業者が作成する事故の記録に含める事項として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故の日時・場所は記録してはならない。」とした。

ア. 点呼記録・保存の回答は誤り／事故の記録・保存期間の回答は正しい。

イ. 点呼記録・保存の回答は正しい／事故の記録・保存期間の回答は正しい。

ウ. 点呼記録・保存の回答は正しい／事故の記録・保存期間の回答は誤り。

エ. 点呼記録・保存の回答は誤り／事故の記録・保存期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。業務前点呼の安全確認内容と関係がなく、健康状態等の確認記録を欠く。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故を特定し検証するため、発生日時・場所等は重要な記録事項である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-093 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【点呼記録・保存】設問「業務後点呼記録に特に反映すべき内容として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「自動車、道路及び運行の状況についての運転者からの報告や、酒気帯び確認の結果などを記録する。」とした。
- B.【事故の記録・保存期間】設問「貨物自動車運送事業者が、輸送安全規則に基づく事故の記録を作成する時期として、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「事故当日に作れない場合は、作成義務が消滅する。」とした。

- ア. 点呼記録・保存の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。
- イ. 点呼記録・保存の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。
- ウ. 点呼記録・保存の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。
- エ. 点呼記録・保存の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。業務後点呼では、運行を終えた運転者から車両・道路・運行状況の報告を受けるため、その内容を記録して次の運行や安全管理に活用する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。当日作成に限定されず、所定期限内に作成する必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-094 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【点呼記録・保存】設問「点呼記録の保存方法について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「電子保存を選んだ場合は、保存期間が1週間に短縮される。」とした。
- B.【事故の記録・保存期間】設問「事故の記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「1か月保存する。」とした。

- ア. 点呼記録・保存の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。
- イ. 点呼記録・保存の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。
- ウ. 点呼記録・保存の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。
- エ. 点呼記録・保存の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。媒体によって保存期間が短縮されるものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1か月では法定の保存期間を満たさない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-095 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「一般貨物自動車運送事業者の運転者の選任について、正しいものはどれか。」に対し、回答「必要数を下回っても、運行管理者が運転を兼務すれば必ず適法となる。」とした。

B.【事故の記録・保存期間】設問「事故記録の作成方法について、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「必要な記録事項を満たしていれば、事故報告書の写し等を活用して事故記録として整理することもでき、電子的な保存も可能である。」とした。

A. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。

I. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は誤り。

U. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。

E. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の記録・保存期間の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者の必要数を確保する義務自体がなくなるわけではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。事故記録は形式だけでなく必要事項が揃っていることが重要である。事

故報告関係書類を活用する場合でも、輸送安全規則上必要な事故記録事項を欠かさない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-096 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「事業用貨物自動車の運転者としての選任に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「雇用期間が短い者ほど安全教育が不要なので、優先して選任できる。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則に基づく事故報告書の提出期限として、原則正しいものはどれか。」に対し、回答「報告書には提出期限がない。」とした。

A. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

I. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

U. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

E. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。短期雇用者への選任制限は、継続的な安全管理を確保する趣旨と逆である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。報告対象事故には所定の提出期限がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-097 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「試用期間中の者を事業用貨物自動車の運転者として選任する場合の説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「原則として試用期間中は選任制限があるが、14日を超えて引き続き使用される場合など、法令上の例外に該当することがある。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者が事故報告書を提出する際の基本的な提出先の考え方として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者の家族だけに報告すれば足りる。」とした。

ア. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

イ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

ウ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

エ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。試用期間中の者には原則的な選任制限がある一方、継続使用の期間に関する例外がある。単に「試用中だから必ず不可」「初日から常に可」と覚えられない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。法定報告は所轄行政機関を通じて行う必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-098 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「運転者等台帳に記載又は記録する事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「氏名だけを記載し、免許や健康に関する情報は一切記載しない。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用貨物自動車に関係する事故で、10台以上の自動車が衝突又は接触した場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「死者がいなければ、台数に関係なく報告対象にならない。」とした。

ア. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

イ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

ウ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

エ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。免許や健康、事故・教育等の所定事項も管理する必要がある。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。死傷者の有無とは別に、10台以上の衝突・接触自体が報告対象となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-099 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運転者の選任・運転者等台帳】設問「運転者が退職等により事業用自動車の運転者でなくなった場合の運転者等台帳の取扱いとして、正しいものはどれか。」に対し、回答「退職当日に必ず廃棄する。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用自動車の事故で、1人の死亡者又は自動車損害賠償保障法施行令で定める重傷者が生じた場合の事故報告について、正しいものはどれか。」に対し、回答「1人であっても死亡者又は所定の重傷者が生じれば、事故報告の対象となる。」とした。

ア. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

イ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

ウ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

エ. 運転者の選任・運転者等台帳の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者でなくなった後も台帳には保存義務があるため、即時廃棄はできない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。事故報告書の対象は「多数死傷」に限られない。死亡者又は所定の重傷者が1人でも生じた事故は報告対象となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-100 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「特別な指導及び所定の適性診断の対象となる代表的な運転者の組合せとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「大型免許を持たない事務員だけである。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則の運用上の「転覆」「転落」の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「転落は道路外へ10メートル以上落ちた場合に限られる。」とした。

ア. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

イ. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

ウ. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

エ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者に対する安全教育制度であり、事務員のみを対象とするものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。10メートルに限定されず、0.5メートル以上の落差が目安である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-101 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「一般貨物自動車運送事業者が新たに雇い入れた運転者について、初任診断を受診させる時期として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「原則として、その事業者の事業用貨物自動車に初めて乗務させる前に受診させる。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「次のうち、自動車事故報告規則上の報告対象となり得るものとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「車内ラジオの選局ができなかっただけの場合。」とした。

ア. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

イ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

ウ. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

エ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。初任診断は、新たに乗務を始める前に運転特性を把握し、個別の指導に生かすための診断である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運行安全に関わる重大な装置故障とはいえず、通常は報告対象類型ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-102 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「貨物自動車運送事業の高齢運転者に対する適齢診断の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「年齢に関係なく、適齢診断はすべて任意である。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者が行う重大事故の速報について、死亡者数に関する代表的な速報基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「死亡者が1人でも、すべての場合に貨物の「2人以上死亡」の速報基準を満たす。」とした。

ア. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

イ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

ウ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

エ. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。高齢運転者には所定の適齢診断を受診させる義務がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1人死亡でも事故報告は必要だが、ここで問う貨物の代表的速報基準「2人以上」とは区別する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-103 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「死亡又は重傷事故を起こした運転者について、当該事故前1年間に事故歴がない場合などに受診させる診断として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「適齢診断だけで必ず足りる。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者の重大事故速報について、負傷者数に関する代表的な基準として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「5人以上の重傷者又は10人以上の負傷者を生じた事故は速報対象となる。」とした。

A. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

I. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

ウ. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

E. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。適齢診断は高齢運転者の加齢特性を把握する診断であり、事故惹起運転者の特定診断とは目的・対象が異なる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。貨物の速報では、重傷者5人以上、負傷者10人以上など、多数の負傷者を生じた事故を迅速に報告する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-104 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「死亡又は重傷事故を起こした運転者で、当該事故前1年間にも事故を起こしている者に対する適性診断として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故歴に関係なく、初任診断だけを受けさせる。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用貨物自動車の運転者が酒気帯び状態で事故を起こしたことが判明した。事故速報に関する対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「本人が反省文を書けば、速報義務はなくなる。」とした。

A. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

I. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

ウ. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

E. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：E

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。初任診断は主として新たに乗務する運転者を対象とし、この事故歴条件に対応する診断ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。反省文は行政への速報・報告義務の代替にならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-105 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「適性診断のうち「一般診断」に関する説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「一般診断は、運転者の運転特性の把握などに活用する診断であり、特別な対象者に義務付けられる初任・適齢・特定診断とは位置付けが異なる。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「運行中、運転者が急病により運転を継続できなくなった。さらに脳疾患や心臓疾患、意識喪失が疑われる状況である。事故報告・速報の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「健康起因事故は労働関係の問題なので、運輸行政への報告制度とは無関係である。」とした。

A. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

I. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

U. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

E. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。一般診断は安全教育に有用だが、事故惹起・初任・高齢といった法定対象に対する義務診断とは区別して理解する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。自動車事故報告規則には運転者の疾病による運行不能に関する報告類型がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-106 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「適性診断結果の活用方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「診断結果は本人に伝えず、人事評価の点数だけに使う。」とした。

B.【安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）】設問「一般貨物自動車運送事業者が、輸送の安全に関する情報を公表する時期として原則正しいものはどれか。」に対し、回答「10年に1回だけ公表すればよい。」とした。

A. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい。

I. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り。

U. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい。

E. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。安全指導に生かさず本人にも特性を理解させない運用は、診断の目的に合わない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。年次の公表制度であり、10年に1回ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-107 難易度3

貨物自動車運送事業における点呼、業務の記録、運行指示書などの具体的な安全管理事項を定める主要な省令はどれか。

ア. 道路交通法施行令

イ. 労働基準法施行規則

ウ. 貨物自動車運送事業輸送安全規則

エ. 道路運送車両法施行規則

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。交通方法等の規定であり、貨物事業者の点呼等の中心省令ではない。

イ：誤り。労働条件に関する規則である。

ウ：正しい。貨物事業の点呼・業務記録・運行指示書等を具体的に定める。

エ：誤り。車両の登録・検査等に関する規則である。

総合解説：貨物の安全管理実務は、貨物自動車運送事業輸送安全規則と結び付けて整理する。

UK01-PDF-108 難易度3

荷主都合の待機や運送条件の変更が過労運転等につながるおそれがある場合、事業者の対応として最も適切なものはどれか。

ア. 荷主の指示なら安全上の問題があっても必ず従う

イ. 運転者だけに調整させ、事業者は関与しない

ウ. 条件が不明確でもそのまま出発させる

エ. 荷主と連絡・協力し、輸送の安全を阻害する行為を防止するため適正な取引の確保に努める

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。安全を阻害する条件を無条件に受け入れない。

イ：誤り。事業者として荷主との調整が必要である。

ウ：誤り。運送条件を明確にして安全な運行を確保する。

エ：正しい。荷主との連絡・協力により過労運転・過積載等を防止する。

総合解説：貨物では荷待ち・附帯業務・運送条件も安全管理と密接に関係する。

UK01-PDF-109 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【特別な指導・適性診断】設問「新たに雇い入れた運転者を初めて事業用貨物自動車に乗務させる前の事故歴把握として、原則的に最も適切なものはどれか。」に対し、回答「少なくとも過去3年間の事故歴を把握し、特別な指導や適性診断の対象かを確認する。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「2025年4月1日施行の貨物自動車運送事業輸送安全規則改正による、荷待時間・荷役作業等の業務記録対象車両について正しいものはどれか。」に対し、回答「最大積載量5トン以上の車両だけが対象のままである。」とした。

A. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

I. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

U. 特別な指導・適性診断の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

E. 特別な指導・適性診断の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。新たに雇い入れた運転者については、過去の事故歴を一定期間さかのぼって把握し、事故惹起運転者に該当するか等を確認して必要な指導・診断につなげる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。最大積載量5トン以上に限定されない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-110 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者に疾病、著しい疲労又は睡眠不足があり、安全な運転ができないおそれがあると認められる場合の措置として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主が急いでいる場合だけは乗務させてよい。」とした。

B.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「業務前自動点呼でアルコール反応や健康状態の異常が検知された場合の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「機器が測定を完了すれば異常があってもそのまま出発させる。」とした。

A. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

I. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

U. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい。

E. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主都合は、安全運転が困難な者を乗務させる理由にならない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。異常がある状態で自動的に乗務可とはできない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-111 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者の健康状態を日常的に把握する主な目的として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「給与査定を低くするためだけに行う。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「荷主の都合により30分以上の荷待ちが生じた場合の現行の業務記録について、正しいものはどれか。」に対し、回答「荷待ちの場所や到着・出発等の時刻など、所定の事項を業務記録へ記載し、保存する。」とした。

A. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

I. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

U. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

E. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。健康状態把握の主目的は安全運行の確保であり、給与査定だけを目的とするものではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。荷主都合による30分以上の荷待ちは業務記録の対象である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-112 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者等台帳の健康状態に関する記録方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「台帳には必ず血液検査の全データを手書きで転記しなければならない。」とした。

B.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則上、貨物に関係する報告対象事故の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「死者が出た事故だけが報告対象である。」とした。

A. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

I. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい。

U. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

E. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。写しの添付等によって健康状態を確認できる方法もあり、必ず全数値を手書き転記する必要はない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。報告対象は死亡事故に限られない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-113 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「運転者に対する一般的な指導及び監督について、実施日時、場所、内容、指導者等を記録した記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「3年間保存する。」とした。

B.【運行記録計・業務の記録】設問「2025年4月1日以降の記録制度について、A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A：荷待時間・荷役作業等の業務記録の対象車両は全車両へ拡大された。

B：この改正により、運行記録計による記録が必要な車両も一律に全貨物車へ拡大された。」に対し、回答「A・Bはいずれも正しい。」とした。

ア. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

イ. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

ウ. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 運行記録計・業務の記録の回答は正しい。

エ. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 運行記録計・業務の記録の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。運転者への指導監督の実施記録は、教育を継続的に検証できるよう3年間保存する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。Bまで正しいとはいえない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-114 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「遠隔点呼だけを長期間受け、自営業所の運行管理者等と直接接する機会が少ない運転者の健康状態や指導状況を把握するための取組として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「3年に1回だけメールを送れば十分である。」とした。

B.【目的・用語の定義】設問「貨物自動車運送事業法の目的として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「貨物の運送をすべて自家用自動車に集約し、事業用自動車を廃止すること」とした。

ア. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は正しい。

イ. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は誤り。

ウ. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は正しい。

エ. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。継続的な健康把握としては頻度・方法とも不十分である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業用自動車を廃止して自家用自動車へ集約する趣旨ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-115 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康状態の把握・指導監督】設問「一般貨物自動車運送事業者が運転者に行う一般的な指導内容として、貨物運送特有の観点を含むものはどれか。」に対し、回答「積載状態は荷主の責任なので、運転者には一切指導しない。」とした。

B.【目的・用語の定義】設問「貨物自動車運送事業法上の「貨物自動車運送事業」に含まれる事業の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「一般貨物自動車運送事業・特定貨物自動車運送事業・貨物軽自動車運送事業」とした。

A. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り／目的・用語の定義の回答は誤り。

I. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい／目的・用語の定義の回答は誤り。

ウ. 健康状態の把握・指導監督の回答は誤り／目的・用語の定義の回答は正しい。

E. 健康状態の把握・指導監督の回答は正しい／目的・用語の定義の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。適正な積載方法や過積載の危険性は、貨物運転者への重要な指導事項である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。一般貨物、特定貨物、貨物軽自動車の3事業をいう。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-116 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「貨物自動車運送事業輸送安全規則上、運行記録計による記録の対象となる普通自動車の重量基準として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「車両総重量8トン以上かつ最大積載量5トン以上だけである。」とした。

B.【目的・用語の定義】設問「次のうち、一般貨物自動車運送事業の定義を正しく説明しているものはどれか。」に対し、回答「自社の貨物のみを自家用自動車で運送する事業である。」とした。

A. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／目的・用語の定義の回答は正しい。

I. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／目的・用語の定義の回答は正しい。

ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／目的・用語の定義の回答は誤り。

E. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／目的・用語の定義の回答は誤り。

答え・解説

正答：E

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。8トン・5トンは別の業務記録上の積載状況に係る基準と混同しやすく、運行記録計の代表基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。自家用で自社貨物のみを運ぶ形は一般貨物自動車運送事業の定義ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-117 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計で記録する基本的な事項として正しい組合せはどれか。」に対し、回答「瞬間速度、走行距離及び運行時間である。」とした。
- B.【目的・用語の定義】設問「貨物軽自動車運送事業の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「自家用乗用車だけを使用し、無償で貨物を運送する事業である。」とした。
- ア. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は誤り。
- イ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は正しい。
- ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は正しい。
- エ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。運行記録計は、運行実態を客観的に把握するため、瞬間速度・走行距離・運行時間を継続的に記録する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。「他人の需要に応じ有償」が基本であり、自家用乗用車だけ・無償という説明は不適切。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-118 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計による記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「当日だけ保存する。」とした。
- B.【目的・用語の定義】設問「特別積合せ貨物運送の特徴として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「荷主が自ら運転する車両だけを使う運送をいう。」とした。
- ア. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は正しい。
- イ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は誤り。
- ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 目的・用語の定義の回答は正しい。
- エ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 目的・用語の定義の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。当日限りでは必要な保存期間を満たさない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。荷主自らの運転が要件ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-119 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「「業務の記録」で積載状況等を記録する重量基準と、「運行記録計」の対象となる重量基準の関係として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「両者とも重量基準はなく、車体色で対象を決める。」とした。

B.【許可・欠格事由】設問「一般貨物自動車運送事業を営もうとする者について正しいものはどれか。」に対し、回答「国土交通大臣の許可を受ける必要がある。」とした。

ア. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 許可・欠格事由の回答は誤り。

イ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 許可・欠格事由の回答は誤り。

ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 許可・欠格事由の回答は正しい。

エ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 許可・欠格事由の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。対象は重量等の法定基準で判断し、車体色では決まらない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。一般貨物自動車運送事業の経営には国土交通大臣の許可が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-120 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「運行記録計を使用している車両の「業務の記録」に関する説明として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「業務の記録には、運行記録計のデータを一切利用してはならない。」とした。

B.【許可・欠格事由】設問「一般貨物自動車運送事業の許可に関する記述として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「許可申請では事業計画だけを審査し、申請者の法令遵守状況は一切考慮されない。」とした。

ア. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 許可・欠格事由の回答は正しい。

イ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 許可・欠格事由の回答は正しい。

ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 許可・欠格事由の回答は誤り。

エ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 許可・欠格事由の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。機器で取得できる事項を業務記録に活用することは可能である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。許可制度は事業計画だけを機械的に見るものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-121 難易度3

貨物自動車運送事業で運行指示書の作成・携行が必要となる運行として最も適切なものはどれか。

ア. 業務開始前と終了後の双方で通常の点呼ができず、途中点呼を要するような運行

イ. 営業所から10km以内の全運行

ウ. 空車の運行だけ

エ. 日帰りで通常の点呼を問題なく実施できる運行だけ

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。営業所から離れ、途中点呼等を要する運行では運行指示書による管理が重要である。

イ：誤り。一律10kmという基準ではない。

ウ：誤り。積荷の有無だけでは決まらない。

エ：誤り。通常の点呼を実施できることだけを理由に必要となるものではない。

総合解説：対象となる長距離運行等では、必要事項を明確にした運行指示書を作成して携行させる。

UK01-PDF-122 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「貨物の運行指示書に記載する事項として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者の趣味だけを記載し、経路は記載しない。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「一般貨物自動車運送事業者が事業計画を変更しようとする場合の原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「事業計画は許可後に一切変更できない。」とした。

ア. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい / 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

イ. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り / 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

ウ. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り / 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

エ. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい / 事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。経路等の運行管理事項を記載する必要がある、趣味は記載事項ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法定手続を踏めば変更できる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-123 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「作成した運行指示書の取扱いとして、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事業者だけが保管し、運転者には内容を知らせない。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「国土交通省令で『軽微な事項』とされる事業計画の変更を行った場合の基本的な手続として正しいものはどれか。」に対し、回答「軽微な事項の変更後、遅滞なく所定の届出を行う。」とした。

A. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

I. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

U. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

E. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運転者が運行中の指示内容を確認できず、運行指示書の目的を果たさない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。軽微な事項の変更は、変更後遅滞なく届け出るという整理が基本。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-124 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「運行中に大雪で予定経路を変更する必要が生じ、運行指示書の内容を変更する場合の対応として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行指示書は一度作成したら、緊急時でも変更してはならない。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「貨物自動車運送事業法施行規則上、軽微な事項に関する事業計画の変更の例として正しいものはどれか。」に対し、回答「事業を全面的に廃止すること」とした。

A. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

I. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

U. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

E. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運行状況の変化に応じて安全確保のため変更することがあり、そのための手続が定められている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業廃止は事業計画の軽微変更とは別の手続。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-125 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「出発時には通常の運行予定で運行指示書を必要としなかったが、災害による長時間の迂回で業務終了時も営業所へ戻れず、途中点呼を要する運行へ変更となった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「運行管理者等が新たに必要な運行指示を行い、運転者に電話等で内容を伝え、事業者側・運転者側で変更内容を記録する。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「営業所に関する変更手続について、最も慎重に確認すべき考え方はどれか。」に対し、回答「営業所の位置変更は、どのような場合も必ず軽微変更である。」とした。

A. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

I. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

U. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

E. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。運行途中の事情で法定の管理が必要な運行へ変わった場合は、当初書類がなかったことを理由に放置せず、必要な運行指示を追加して記録する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。位置変更は事業計画上の重要事項となり得るため、一律に軽微とはいえない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-126 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「貨物の運行指示書及びその写しの保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「保存するのは運転者の原本だけで、事業者側の写しは保存不要である。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「各営業所に配置する事業用自動車の種別ごとの数を変更する場合の手続として、原則正しいものはどれか。」に対し、回答「車両数変更はすべて事業計画変更認可の対象であり、届出で扱われる場合はない。」とした。

A. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

I. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

U. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

E. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。運行指示書と事業者側の写しについて保存が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業用自動車に関する一定の変更は、認可ではなく届出の対象となる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-127 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書（貨物・長距離運行等）】設問「運行指示書の作成・保存方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「電子化すれば、経路や休憩地点の記載は不要になる。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「事業者が、認可を要する事業計画変更を実施してから後で届け出れば足りると判断した。この判断として正しいものはどれか。」に対し、回答「誤り。認可を要する変更は、原則として変更前に認可を受ける必要がある。」とした。

A. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

I. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

U. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

E. 運行指示書（貨物・長距離運行等）の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。媒体が変わっても必要な記載事項は省略できない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。認可事項は事前に認可を得てから変更するのが原則。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-128 難易度2

運行指示書を携行中、行先や経路などの記載事項に変更が生じた場合の対応として正しいものはどれか。

A. 帰庫後にだけ訂正する

I. 運転者へ口頭で伝えるだけにする

U. 変更後は運行指示書を廃棄する

E. 営業所側の写しに変更内容を記載し、電話等で指示し、運転者側の運行指示書にも変更内容を記載させる

答え・解説

正答：エ

A：誤り。運行中に適切な指示と記録が必要である。

I：誤り。営業所側の記録にも反映する。

U：誤り。変更後も運行指示書による管理が必要である。

E：正しい。双方に変更内容を反映し、確実に指示する。

総合解説：実際の運行計画と運行指示書を一致させ、営業所と運転者で変更内容を共有する。

UK01-PDF-129 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の記録・保存期間】設問「事業者が作成する事故の記録に含める事項として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者名、事故発生日時・場所、事故の概要、原因、再発防止対策など、事故状況とその後の安全対策を確認できる事項である。」とした。

B.【事業計画（変更認可・届出・軽微）】設問「営業所の事業用自動車を大幅に増車する計画がある。事業計画変更の手続と同時に、運行管理面で優先して確認すべき事項はどれか。」に対し、回答「運転者数だけを確認すれば足り、運行管理者の必要数は車両数に左右されない。」とした。

A. 事故の記録・保存期間の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

I. 事故の記録・保存期間の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

U. 事故の記録・保存期間の回答は正しい／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は正しい。

E. 事故の記録・保存期間の回答は誤り／事業計画（変更認可・届出・軽微）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。事故記録は単に事故があった事実だけでなく、発生状況・原因・再発防止策まで残し、安全管理へ反映するための資料である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者の確保も重要だが、運行管理者の配置基準は車両数と直接関係する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-130 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の記録・保存期間】設問「貨物自動車運送事業者が、輸送安全規則に基づく事故の記録を作成する時期として、原則として正しいものはどれか。」に対し、回答「事故発生後10年以内であればいつでもよい。」とした。

B.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業者の名義利用に関する記述として正しいものはどれか。」に対し、回答「名義貸しは事業開始から1年間だけ禁止され、その後は自由である。」とした。

A. 事故の記録・保存期間の回答は正しい／名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

I. 事故の記録・保存期間の回答は誤り／名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

U. 事故の記録・保存期間の回答は誤り／名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

E. 事故の記録・保存期間の回答は正しい／名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。10年という長期間の猶予はなく、事故後速やかに30日以内で作成する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。期間限定の禁止ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-131 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の記録・保存期間】設問「事故の記録の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「保存義務はない。」とした。

B.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業を他の事業者へ譲渡しようとする場合の法的取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「法令に基づき国土交通大臣の認可を受けるなど、所定の手続が必要である。」とした。

A. 事故の記録・保存期間の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

I. 事故の記録・保存期間の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

U. 事故の記録・保存期間の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

E. 事故の記録・保存期間の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故記録には3年間の保存義務がある。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。一般貨物自動車運送事業の譲渡・譲受けには法令上の認可等の手続が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-132 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の記録・保存期間】設問「事故記録の作成方法について、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「紙以外で保存した事故記録は常に無効である。」とした。

B.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業者が、その事業を休止または廃止しようとする場合の届出時期として正しいものはどれか。」に対し、回答「休止・廃止の7日前までに届け出なければならない。」とした。

A. 事故の記録・保存期間の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

I. 事故の記録・保存期間の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

U. 事故の記録・保存期間の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

E. 事故の記録・保存期間の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。必要な要件を満たせば電子的な保存も可能である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。7日前ではなく、法は30日前までの届出を求めている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-133 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則に基づく事故報告書の提出期限として、原則正しいものはどれか。」に対し、回答「事故発生の日から30日以内である。」とした。

B.【名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消し】設問「一般貨物自動車運送事業の許可取消し等の行政処分について正しいものはどれか。」に対し、回答「行政処分は事業者の希望により、警告・停止・取消しの中から自由に選択できる。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 名義利用禁止・譲渡譲受・休止廃止・取消しの回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。報告対象事故については、事故発生日から30日以内に自動車事故報告書を提出する。重大事故の速報はこれとは別に、より迅速な対応が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。行政処分は法令と処分基準等に基づいて行政庁が行うもので、事業者が選ぶ制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-134 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者が事故報告書を提出する際の基本的な提出先の考え方として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者の家族だけに報告すれば足りる。」とした。

B.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「貨物自動車運送事業者の輸送の安全に関する基本的な責務として正しいものはどれか。」に対し、回答「利益が減る場合は安全措置を省略してよい。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。法定報告は所轄行政機関を通じて行う必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全措置は利益状況を理由に任意に省略できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-135 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用貨物自動車が関係する事故で、10台以上の自動車が衝突又は接触した場合の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「死者がいなければ、台数に関係なく報告対象にならない。」とした。

B.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「輸送の安全に関する情報公開を行う意義として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「安全に関する取組や状況の透明性を高め、事業者の継続的な安全性向上につなげる。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。死傷者の有無とは別に、10台以上の衝突・接触自体が報告対象となる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。安全に関する情報を公表することは透明性を高め、継続的な改善を促す。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-136 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用自動車の事故で、1人の死亡者又は自動車損害賠償保障法施行令で定める重傷者が生じた場合の事故報告について、正しいものはどれか。」に対し、回答「物損が小さければ、死亡者がいても報告不要である。」とした。

B.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「事業者が「運行管理者を選任したので、経営側は輸送の安全に関与しなくてよい」と考えた。この考え方として正しいものはどれか。」に対し、回答「正しい。安全責任は運転者と運行管理者だけが負う。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。死亡事故は物損額にかかわらず報告対象である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業者にも安全確保の責務がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-137 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則の運用上の「転覆」「転落」の説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「転覆は道路面に対して車体が35度以上傾斜した状態、転落は道路外へ0.5メートル以上の落差で落ちた状態などをいう。」とした。

B.【輸送の安全確保義務・情報公開】設問「輸送の安全性向上の取組として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故情報を社内で隠し、再発防止の検討をしない。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 輸送の安全確保義務・情報公開の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。報告対象となる転覆・転落には運用上の具体的な目安がある。35度と0.5メートルを混同しないようにする。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故情報を分析し再発防止につなげることが重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-138 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「次のうち、自動車事故報告規則上の報告対象となり得るものとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者が昼食メニューを変更しただけの場合。」とした。

B.【過労運転等の防止】設問「一般貨物自動車運送事業者の過労運転防止措置として正しいものはどれか。」に対し、回答「荷主の希望があれば、安全に関する時間基準より納期を常に優先する。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は正しい。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は誤り。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。事故や安全装置故障とは関係がなく、報告対象ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。納期より法令・安全確保が優先される。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-139 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者が行う重大事故の速報について、死亡者数に関する代表的な速報基準として正しいものはどれか。」に対し、回答「死亡者が5人以上でなければ速報対象にならない。」とした。

B.【過労運転等の防止】設問「長距離または夜間の運転で、運転者が疲労等により安全な運転を継続できないおそれがある場合の事業者の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「必要に応じ、あらかじめ交替するための運転者を配置するなど過労運転を防止する。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は誤り。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は誤り。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は正しい。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。貨物の代表的な死亡者基準は2人以上であり、5人以上ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。長距離・夜間運行等では交替運転者の配置などが必要になる。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-140 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「貨物自動車運送事業者の重大事故速報について、負傷者数に関する代表的な基準として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「重傷者20人以上だけが速報対象で、一般の負傷者数は一切関係ない。」とした。

B.【過労運転等の防止】設問「運転者が疾病により安全な運転ができないおそれがある場合、事業者の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者不足なら疾病の程度にかかわらず乗務を命じる。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は正しい。

I. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は正しい。

U. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 過労運転等の防止の回答は誤り。

E. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 過労運転等の防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。基準は重傷者5人以上又は負傷者10人以上であり、20人に限定されない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者不足を理由に、安全な運転が困難なおそれのある者を乗務させてはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-141 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「事業用貨物自動車の運転者が酒気帯び状態で事故を起こしたことが判明した。事故速報に関する対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故報告書の対象として扱うとともに、酒気帯びを伴う事故として速やかな速報が必要となる。」とした。

B.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「一般貨物自動車運送事業者が独自の運送約款を定める場合の基本的な取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運送約款は設定後の事後届出だけで足り、認可制度はない。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

イ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

ウ. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

エ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。酒気帯び運転を伴う事故は社会的影響が大きく、通常の30日以内の事故報告に加えて、重大事故として速やかな速報が求められる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。独自約款は単なる事後届出制度ではなく、原則として認可の対象。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-142 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「運行中、運転者が急病により運転を継続できなくなった。さらに脳疾患や心臓疾患、意識喪失が疑われる状況である。事故報告・速報の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「衝突していなければ、運転者が意識を失っても一切報告不要である。」とした。

B.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「国土交通大臣が定めて公示した標準運送約款と同一の運送約款を定める場合の扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「標準約款を使うと運行管理者を選任しなくてよい。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

イ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

ウ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

エ. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。疾病で運行を継続できなくなった事象自体が報告対象となり得る。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運行管理者選任義務も別制度。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-143 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）】設問「一般貨物自動車運送事業者が、輸送の安全に関する情報を公表する時期として原則正しいものはどれか。」に対し、回答「事業年度終了後3年以内であればよい。」とした。

B.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「認可を受けた独自の運送約款の内容を変更する場合、原則として必要となる手続はどれか。」に対し、回答「変更についても国土交通大臣の認可を受ける。」とした。

ア. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

イ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

ウ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

エ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。原則100日以内の公表であり、3年以内では遅い。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。独自の運送約款は、設定だけでなく変更についても原則として認可が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-144 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）】設問「運行管理者試験（貨物）の第1分野を学習する際、貨物事業の点呼・運転者指導・事故記録等の主要な根拠省令として適切なものはどれか。」に対し、回答「学校教育法施行規則だけである。」とした。

B.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「一般貨物自動車運送事業者が運賃・料金を設定または変更した場合の届出について、現在の取扱いとして正しいものはどれか。」に対し、回答「運賃・料金は運送約款に記載されるため、別途の届出は一切不要である。」とした。

ア. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

イ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

ウ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

エ. 安全取組公表・輸送安全規則その他（貨物補正）の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。学校教育に関する省令であり、貨物運送の点呼等の根拠ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運送約款の認可と運賃・料金の届出は別の制度として扱う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-145 難易度2

荷主の都合による長時間の待機が続き、運転者の過労運転につながるおそれがある。事業者の対応として最も適切なものはどれか。

- ア. 荷主と連絡・協力し、待機や運送条件を調整して適正な取引の確保に努める
- イ. 荷主の都合なので運転者だけに対応させる
- ウ. 待機時間を記録せず運行を続ける
- エ. 納期を優先し休息を短縮する

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。荷主との連携により安全を阻害する要因を減らす。

イ：誤り。事業者も安全確保のため調整する必要がある。

ウ：誤り。待機等の実態把握も重要である。

エ：誤り。過労運転につながる運行を避ける。

総合解説：荷主との協力を通じて、荷待ちや条件変更による過重な負担を防ぐことが重要である。

UK01-PDF-146 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「2025年4月1日施行の貨物自動車運送事業輸送安全規則改正による、荷待時間・荷役作業等の業務記録対象車両について正しいものはどれか。」に対し、回答「最大積載量5トン以上の車両だけが対象のみである。」とした。

B.【運送約款・運賃料金（認可・届出）】設問「新サービスの開始に伴い、独自の運送約款と運賃・料金の双方を変更する場合の対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「両方を同日に変更する場合に限り、いずれの行政手続も不要となる。」とした。

ア. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

イ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は正しい。

エ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい / 運送約款・運賃料金（認可・届出）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。最大積載量5トン以上に限定されない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。同時変更で法定手続が消滅する制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-147 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）】設問「業務前自動点呼でアルコール反応や健康状態の異常が検知された場合の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「機器が測定を完了すれば異常があってもそのまま出発させる。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「一般貨物自動車運送事業の営業所で、被けん引車を除く事業用自動車29両である。原則として必要な運行管理者数の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「1人で基準を満たす。貨物では29両までが原則1人の区分だからである。」とした。

A. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

I. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

U. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

E. 電話等・IT・遠隔・自動点呼（業務前・業務後）の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。異常がある状態で自動的に乗務可とはできない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。貨物では29両まで原則1人。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-148 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「荷主の都合により30分以上の荷待ちが生じた場合の現行の業務記録について、正しいものはどれか。」に対し、回答「30分以上でも運転していないため記録対象にはならない。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「ある営業所は事業用自動車45両を運行管理し、現在の運行管理者は1人である。法定の最低配置基準を満たすための対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「さらに2人を追加し、合計3人にしなければならない。」とした。

A. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

I. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

U. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

E. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転していない荷待ちも所定要件で記録対象となる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。45両で原則3人は必要ない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-149 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故の定義・速報・報告書】設問「自動車事故報告規則上、貨物に関係する報告対象事故の説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「コンテナの落下や、法令で定める危険物等の飛散・漏えいなどは、人身事故がなくても報告対象となり得る。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「営業所の事業用自動車が59両から60両へ増車される予定で、運行管理者は2人選任されている。増車に伴う対応として正しいものはどれか。」に対し、回答「運行管理者を1人に減らす。」とした。

A. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

イ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

ウ. 事故の定義・速報・報告書の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

エ. 事故の定義・速報・報告書の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事故報告規則には、人身事故以外にもコンテナ落下や危険物等の飛散・漏えい等の類型が定められている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。60両で1人では不足する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK01-PDF-150 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行記録計・業務の記録】設問「2025年4月1日以降の記録制度について、A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A：荷待時間・荷役作業等の業務記録の対象車両は全車両へ拡大された。

B：この改正により、運行記録計による記録が必要な車両も一律に全貨物車へ拡大された。」に対し、回答「Aは誤りだが、Bは正しい。」とした。

B.【選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）】設問「同一事業者にA営業所（事業用自動車28両）とB営業所（同18両）がある。各営業所で原則必要な最低運行管理者数を合計したものととして正しいものはどれか。」に対し、回答「3人。複数営業所でも会社全体で3人いればよい。」とした。

A. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

イ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

ウ. 運行記録計・業務の記録の回答は誤り／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は正しい。

エ. 運行記録計・業務の記録の回答は正しい／選任・員数（貨物：営業所／保有車両数）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。Aは現行改正内容に合致する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。会社全体で任意の人数にまとめる制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。